

1. 評価報告概要表

作成日平成 19年 12月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4091600157
法人名	社会福祉法人 豊生会
事業所名	みゆき苑 グループホーム西牟田
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市三潅町西牟田 6323 - 9 (電 話) 0942 - 65 - 2150

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成19年12月18日	評価確定日	平成20年3月11日

【情報提供票より】(19年 11月 25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 5 人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30,000	円	その他の経費 (月額)		円	
敷 金	有 (円)		無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円) 無		有りの場合 償却の有無		有 無	
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または 1日当たり			1,000 円		

(4)利用者の概要 (11月 25日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護 1	5 名	要介護 2	8 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	66 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	藤吉内科医院 本荘歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は閑静な住宅地の中にあり 最寄の駅からは3分程度の環境に位置し、平成18年に開設された新築のホームである。建物は全館にわたり手摺・バリアフリーで車椅子でも自由に行動ができるよう十分な広さを取っている。また、自室には個別の洗面所が設置され、一人ひとりの生活習慣を大切に支援しており、利用者はゆったりと落ち着いた表情で自由に過ごされている。定期的に開催される運営推進会議には、行政担当者や地域自治会長・家族等が参加し、活発な意見はホームの運営やサービスに活かされている。事業独自の理念である「自立 快適 安心」に沿って職員全員がケアの技術の向上に取り組んでおり、利用者一人ひとりが安全に、安心して豊かに過ごせるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目 : 外部4)
重点項目	初回の為、前回評価なし。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目 : 外部4)
重点項目	全職員で自己評価に取り組む中で改善への気づきがあったことを評価しながら、今後の課題として前向きに取り組む姿勢が感じられた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目 : 外部4, 5, 6)
重点項目	町内会長、公民館館長、民生委員等の地域の人々・市職員・地域包括支援センターの担当者・利用者家族等に参加してもらい意見交換や事業所からの状況報告を行っている。現在、2、3ヶ月に1回の開催がなされている。今回の自己評価や外部評価の改善内容や取り組み状況を報告し、運営推進会議で改善経過モニターしてもらうことにより、相乗効果が期待できる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目 : 外部8, 9)
重点項目	ほとんどの家族が、平均月1回来訪されており、その時に利用者一人ひとりの健康状態や生活状態、金銭報告を行なっている。日頃の様子や外出時の様子は写真にして、ホーム内の壁に掲示している。また玄関に意見箱を設置しているが、苦情はなかなか言い出しにくいものであるとの認識を全職員持っており、意見を引き出す努力・雰囲気作りをしている。
重点項目	日常生活における地域との連携 (関連項目 : 外部3)
重点項目	地域の祭りや運動会など、積極的に参加し、地域との交流を大事にしている。また利用者と共に地域の清掃にも参加し、コミュニケーションを深めごく普通の近所付き合いが出来ている。隣近所の方々と合同の避難訓練もできており、ホームへ気軽に訪問できる関係となっている。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「自立 快適 安心」は、人間の尊厳を大切に、家庭的な雰囲気の中で利用者の個性を生かし、日常的生活を送れる様支援している。また地域住民の一人としその人らしく暮らし続ける事ができるよう事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念および管理者のケアに対する思いは十分に職員に浸透しており、日々のケアで実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や祭りなどに積極的に参加し交流を深めている。また地域の清掃や廃品回収にも利用者と共に出かけて参加している。ホームの行事にも敬老会など地域の方が気軽に参加するなど地元の人々と交流する機会を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組む中で改善点や気づきがあったことを評価し、実践に向けて前向きに取り組む姿勢が見られる。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2、3ヶ月に1回開催され、家族代表、町内会長、公民館館長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員など多数の参加がある。利用者の暮らしぶりや行事予定などを報告し、意見を聴いたり、討議したりしサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは顔なじみであり、何かあればすぐに相談に行っている。担当者の方も気軽に相談にのってくれ、アドバイスをしてくれる。また情報交換を行なうなど連携を図っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている利用者はいないが、グループホーム協議会や市主催の研修会等には参加しているが、権利擁護の制度の理解までには至っていない。また具体的な活用方法や相談機関などの資料がない。	○	必要な人への支援ができるよう、事業所にも常時パンフレットを設置し、活用方法や関係機関への橋渡しができるようタイミングのよい支援を期待したい。
4.理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者や職員は、家族来訪時に金銭管理の報告を毎月行なっている。同時にホーム内での暮らし方や状況も知らせている。来訪できない家族には郵送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に意見や苦情が言えるように、日頃からコミュニケーションを密に取るようにしている。また玄関には意見箱を設置し、意見集約に取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	系列事業所・ユニット間の中で異動があるが、利用者へのダメージを防ぐため、系列職員・ユニット間の職員の相互交流を行い、ユニットを超えて利用者となじみの関係ができるように努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用に際して、性別や年齢の制限はなく、職員の休みや勤務交代にも柔軟に対応している。また、職員の社会参加や自由に意見を言えるよう雰囲気作りをしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念を用いながら研修を行い、日々の介護の中で利用者一人ひとりの人格を尊重した介護を実践している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外の勉強会や研修会には積極的に参加されているが、新任、常勤職員の年間研修計画が作成されていない。	○	サービスの質は職員の質によって成り立っており、職員の質の確保および向上にむけた育成が必要となる。その人の経験年数、認知症介護の理解や習熟度などその人の段階に応じた事業所としての計画を立て、受講することが望まれる
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所のグループホームと一緒に研修を行ったり、人事交流を行なっている。他にもグループホーム連絡協議会に参加し、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族にホーム内を見学していただく中で利用者の方との触れ合いや食事と一緒にできる体制をとっている。また体験入所ができ、利用者や家族が納得した上で入居できるように支援している。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごす中で、一人ひとりの気持ちを受け止め理解しようと努力している。また利用者の得意分野で力を発揮できるような場面作りや声掛けを行い、互いに支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活歴や家族からの情報をもとに、一人ひとりの意向の把握に努めている。できる限り本人の思いや願いを汲み取るよう努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議では介護計画についての話し合いがなされ、職員の日々の関わりの中で気づきなどの意向を交わしているが、計画に表現されている文書自体は介護者から見たものとなっている。	○	実際のケアについては、利用者主体に行なわれているが、介護計画についてはいまだ少しの取り組みを期待したい。問題点や困っている状況のみに着目し対応するだけのプランでは、利用者の自立した生活につながることは難しいように感じる。利用者の困っている状況を改善して望む生活に向かうためには、利用者の「できないこと」への援助だけでなく「できること」を「さらにできるように」する可能性を広げる援助を行なっていくことが必要だと思われる。また、見直しの際に、目標が達成できたかどうか客観的に検討しやすくなり、次の目標設定が的確にできるようになると思われるので、更なる計画の充実に向け、取り組みを行なっていくことを期待したい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1回定期的に行うとともに状態が変化したとき随時検討、見直しを行なっている。またモニタリングも行なっているが、その記載が次の計画立案に向けて大まかである。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関や利用者が希望する医療機関の受診に家族が同行できない場合や希望する外出支援の送迎を自主サービスとして柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医やなじみの医師との信頼関係を尊重し、家族が同行できない場合は職員が受診介助を行なっている。夜間・緊急時の対応については、ホーム連携医の往診や受診を受ける体制ができている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に終末期に対する本人や家族の意向を尋ねている。できる限り利用者や家族の意向に添えるよう取り組むことを職員間で話し合っている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎日の生活の中でプライドを傷つけないような声掛けや態度で接している。また書類は事務室に管理し、職員以外の人の目にふれないようきちんと保管している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、起床時間など、利用者一人ひとりのペースに合わせ、これまでの生活と同じように自由にできるよう希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と同じ献立を同じテーブルで摂りながら、摂取状況に応じた声掛けなどを行い対応している。また食事の準備や後片付けも利用者の能力に応じ手伝ってもらっている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は一応決まっているが、いつでも入浴可能である。利用者の体調や希望に合わせてシャワー浴を行ったり、利用者のその日の気分や希望に添った入浴もできるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、裁縫、園芸、工作、買い物など利用者一人ひとりの能力に応じた対応ができています。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度の方も、天気やその日の気分に合わせて外出したり、ドライブしたりしている。ほぼ毎日散歩に行かれる方もおられるが、止めることはせず、職員と一緒にいるなど、利用者の気持ちに合わせてケアを行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な生活を尊重し、基本的には全室、玄関などの出入口の鍵をかけていない。常にスタッフの目配りがなされている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう動きかけている	年2回、消防署の協力も得ながら避難訓練を行なっている。避難場所も周りが広々とした場所になっており安心である。夜間想定訓練もしている。また地域住民の参加もあり、地域の協力を得ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や水分摂取量を個々に記録し把握している。また、その人の疾病や状態にあった調理方法や内容を考慮したり、ミキサー食、おかゆ等、個人別に対応している。定期的に献立を栄養士にチェックしてもらい、助言を得ている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には数人で座れるソファを配置し、テレビを見たり自由に過ごせるように工夫している。またテレビを設置している所は畳式で寝転がれるようにしている。廊下には行事や外出時の写真を掲示し、楽しく心地よく過ごせる工夫をしている。またアロマ加湿器が設置され、居心地良く過ごせるよう配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のクローゼットベッド以外の必要物品は、すべて利用者・家族が持ち込まれた物で、テレビ、筆筒、仏壇など慣れ親しんだ数々の物が配置され、それぞれ个性的で居心地よく過ごせる工夫がなされている。		